

平成 24 年 2 月 9 日

## 政策提言書

臼杵市長 中野 五郎 殿

政策討論会総務部会において深められた議論について政策提言します。

臼杵市議会議長 武生 博明

政策討論会総務部会長 吉岡 勲

## 【提 言】 自主防災組織の充実

### 〔趣 旨〕

臼杵市の自主防災組織の結成率は現在81.4%であり、全国平均と比較しても高い数値を示している。しかしながら、組織の運営・活動については、リーダーの不在、地区の高齢化による活動要員の不足、活動に対する住民意識の不足等多くの課題が指摘されており、組織としての役割を十分果たせていない。また、昨年3月に発生した東日本大震災により、これまでの防災対策そのものが見直されるとともに、自主防災組織の重要性が改めて確認されることとなったため、今後はより地域と行政が一体となった自主防災組織の再構築が求められている。

これまでの臼杵市の防災に対する組織体制は、自主防災組織については消防本部が所管し、防災対策全般については総務課の防災管財広報グループが庁舎管理、広報と併せて所管しているため、効果的効率的な防災施策の実施に支障をきたしている。さらに24年度以降、地域防災活性化の要となる防災リーダーの育成を重点施策とする方針からも、臼杵市の防災に対する組織体制を見直す必要があると思われる。

したがって、地域の実情に合った自主防災組織の体制の見直し及び確立のためには、まず防災を専門に担当する組織を編成し、地域に根ざした施策を実施できる体制を確立すべきである。また、これまで行ってきた防災訓練に加え、炊き出し訓練、避難所運営等、災害を想定したより実践的な防災訓練を実施することで、地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づいて自主的に結成する防災体制の構築が期待できる。さらに臼杵市の防災体制を構築するうえで、防災リーダーの育成は不可欠なものであるため、防災リーダーの育成を積極的に行うためには、地域と密に連携をとり、有望な人材を確保するとともに、防災士資格取得の際の交通費、受験料等の諸費用について市が負担する等、防災リーダーを育成するための環境整備も必要である。

### 〔提言内容〕

1. 防災対策課（仮称）を設置し、自主防災組織の強化を行うこと
1. 災害を想定した実践的な防災訓練を実施すること
1. 防災リーダーを育成するための環境整備を行うこと

平成24年3月19日

## 政策提言書

白杵市長 中野 五郎 殿

政策討論会教育民生部会において深められた議論について政策提言します。

白杵市議会議長 武生博明

政策討論会教育民生部会長 藤原一弘

## 【提 言】地域で支え、地域を支える行政の取り組み

### 〔趣 旨〕

臼杵市の高齢化率は現在32.3%で全国平均と比較しても高く、10年後には40%近くに達する見込みである。本市ではこうした状況を見据え、「安心生活お守りキット」の配布や「地域振興協議会」の設立を支援するなど、地域住民が助け合い、支え合う「共助」の充実を図る施策は、今後、さらに重要性が増すものと思われる。

民生委員にあっては、住み慣れた地域において高齢者の見守りや声かけ・相談などの役割を担っているが、なり手不足とともに職務も多様化し、人的資源にも限界があることから、市内全域を支援していくことは、困難な状況である。

このような中、臼杵地域においては、臼杵市社会福祉協議会により、20世帯に概ね1人の割合で「福祉委員」が約680名委嘱され、民生委員とも連携を図りながら、地域の高齢者の見守りや声かけなどをボランティアで行っている。このような活動をしている福祉委員と意見交換を行ったところ、福祉委員の高齢化による人材不足や活動に必要な資金不足など様々な課題とともに、福祉委員が活発に活動する地域がある一方で、活動内容が十分理解されず、福祉委員としての意識不足など、地域によって温度差が生じていることが明らかになった。また、福祉委員は、ボランティアによる活動であることから、地域の課題への対応が十分行われていない状況も見受けられた。

一方、野津地域においては、このような組織はないが、健康診査の受診勧奨などを目的に「健康づくり推進員」が配置され、市が約160名を任命している。健康づくり推進員との意見交換では、かつては健康づくり推進活動とともに、地域の見守り・声かけなどの一部も担っていたが、その後の制度改正などにより、現在では、その役割も薄れてきているという実態も見受けられた。

このような状況を鑑み、臼杵地域と野津地域のいずれの地域においても高齢者が安心して暮らせるよう、地域における「共助」の充実・強化を図り、見守りや福祉サービスなどが提供されるようなシステムの構築が望まれる。そのためには、人材の育成を図るとともにその配置や身分・処遇などの地域バランスを平準化し、臼杵市内どこに住んでも公平な福祉サービスが受けられるよう、社会福祉協議会との連携をさらに深め、行政が支援策を講ずる必要があると考える。

### 〔提言内容〕

1. 高齢者が安心して日常生活が送れるように、地域における人材の育成と地域バランスの取れた支援を行うこと
1. 臼杵市社会福祉協議会との連携を強化し、地域における高齢者の支援体制の拡充に努めること

平成24年 3月28日

## 政策提言書

臼杵市長 中野 五郎 殿

政策討論会建設産業部会において深められた議論について政策提言します。

臼杵市議会 議長 武生 博明

政策討論会建設産業部会長 山下 幸延

## 【提言】臼杵市の地場産業を活かした観光振興のあり方

### 〔趣旨〕

合併により誕生した臼杵市は、機構・組織に於いてはその枠組みの中で機能し体制を整えている。しかしながら時々刻々と変化する世の中の動きを的確に捕え対処してゆくことは困難なことであるが、今後は生き残りをかけた自治体間の熾烈な競い合いとなろう。

そのような中で臼杵市が今後どのような形で発展し、産業を振興し持続可能な将来に希望の持てるまちにする為にはどうすれば良いかを大きなテーマとし真正面から向き合ってきた。

臼杵市は他市に比べ観光施設が充実しているが、これを生かしきれていないのではないかと。第1次産業との連携を探って、地産地消を基にした観光産業の充実が図れるのではないかと。観光を産業と結びつけた取り組みができないか、という観点から委員の一致した意向として取り組むべき課題を「臼杵市の地場産業を活かした観光振興のあり方」に決定し、それに伴った活動を開始した。

所管事務調査を皮切りに行政視察もこの課題解決に添った地域選定とし、観光関係の調査研究を重ねた。また、市内の観光の実態を把握する目的で観光に携わる市民の方々や観光関係の企業組織の方々と意見交換会を開催し様々な悩みや取り組みの実態について意見を聴取した。企業の方々からは議員の人は臼杵市の観光施設の実態をどれだけ理解しているのかとの貴重な意見をいただき、委員会に於いて早速現地調査をし、今後どう生かせるか研究したところである。

こうした活動を通じて見えてきたことは、市内各地で実施されている個々の行事や催し物は、その関係者の努力で素晴らしい成果を納めており、今後もそうした方向で進んでいくと思う。

ただ、大きな視点に立てば、それで終わってしまってもよいのだろうかとの思いが残る。諸々の行事や組織を統合し、統制する何かが欠けていると感じる。連携と統一させる枠組みがなければ一過性に終わってしまい持続可能なものとなりにくいと考えられる。こうしたことを基に下記のとおり提言する。

### 〔提言内容〕

- 1) 既存組織の垣根を取り払い、大局的な見地で統一的な臼杵市の観光振興と戦略の確立を図るための組織体制の確立を図ること。
- 2) その組織が、地場産業を主に生産・流通・販売・広報のトータルサポートを行い、経済効果の創出と広域展開を図ること。
- 3) 食と農業・水産業を基調として通年アピールできる臼杵ブランドの開発を図ること。
- 4) 観光客のニーズに応える季節にあった臼杵観光プランと客を引き付ける臼杵市のキャッチフレーズの確立を図ること